

今こそ現場教職員の
声をとどけよう!!



提言にみなさんのご意見をお寄せください

日教組 カリキュラム提言

今後、10年間の学びを決める学習指導要領改訂への

5つの
提言

- 1 年間総授業時数の削減を
- 2 学習指導要領の内容精選を
- 3 特別活動の時間をゆたかに
- 4 学習指導要領から部活動の記載の削除を
- 5 標準時数を「最低基準」とした2003年通知の見直しを

日教組 カリキュラム提言

5つの

次期学習指導要領の改訂では、子どもの実態や学校現場の状況に鑑み、「カリキュラム・オーバーロード」の解消、年間総授業時数の削減、学習指導要領の内容精選等が重要な課題です。日教組は5つの提言を通して、誰もが安心して過ごせる学級・学校を求めています。

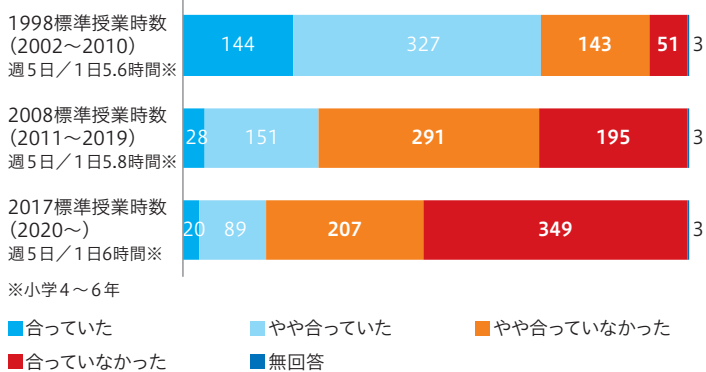
1 年間総授業時数の削減を カリキュラム・オーバーロード(子どもに過大な負担がかかっている状態)解消のために

現行:(小4～中3)ほぼ毎日6時間授業(週29時間)

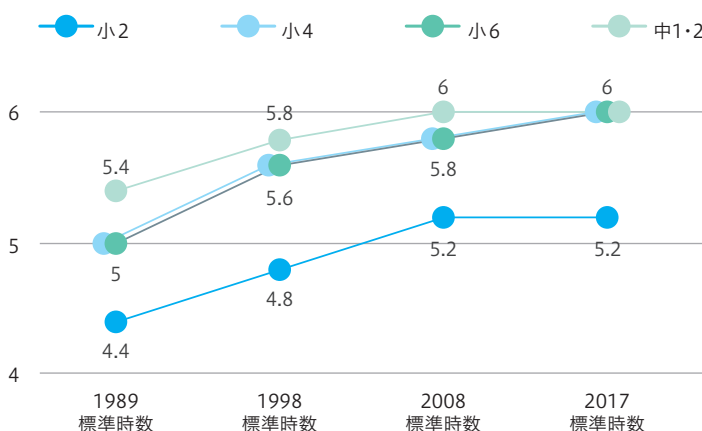
提言

小4～6は毎日5時間(週25時間)、
中1～3は週2日6時間(週27時間)に。
また、小学校教員の持ち授業コマ数の上限規制が必要

各期の標準授業時数は子どもの生活にあっていただか(人) /
公立小学校教員 668 人の回答



標準時数による平日1日時数の変遷



教職員の声

「6時間授業は子どもが集中できない」「授業時数が多く子どもたちが疲弊している」「子どもたちと関わる時間や教材研究の時間が十分に取れない状況にもどかしさも大きいです」



日教組「働き方改革」意見投稿フォーム Ver.2より

2 学習指導要領の内容精選を 大切な内容をじっくり学ぶために

現行:内容・量ともに過多、子どもに過大な負担

提言

年間総授業時数の見直しと合わせて内容精選・見直しを

学習指導要領の変遷と教科書のページ数(小学5年算数教科書東京書籍)

学習指導要領	教科書の頁数①	標準時数②	1単位時間あたりの頁数①÷②
1989 学習指導要領	212	175	1.2
1998 学習指導要領	174	150	1.2
2008 学習指導要領	286	175	1.6
2017 学習指導要領	310	175	1.8

1.5倍!

約20年間で1単位時間あたりの頁数が1.5倍に!

教職員の声

「時数も内容も詰め込みすぎ」「内容精選をして、ゆとりある教育活動を保障してほしい」「内容の精選には現場のアイデアや声を聞いてほしい」



日教組「働き方改革」意見投稿フォーム Ver.2より

3 特別活動の時間をゆたかに 子どもが自分たちで話し合ったり、決めたりできる時間を増やすために

現行:35時間

提言

1989年改訂当時の70時間に戻して、
児童会活動や生徒会活動の時間を確保すべき

学習指導要領に記載されているのに時数でカウントされていない?

「学習指導要領の特別活動の内容」と「標準時数の特別活動の時数」(小学4～6年の1学年あたり)

学習指導要領における特別活動の内容	1989年		1998年		2008年		2017年	
	学習指導要領への記載	標準時数	学習指導要領への記載	標準時数	学習指導要領への記載	標準時数	学習指導要領への記載	標準時数
児童会活動	あり		あり		あり		あり	
学級活動(1968・1977は学級会活動)	あり	35時間	あり	35時間	あり	35時間	あり	35時間
クラブ活動(4～6年)	あり	35時間	あり		あり		あり	
学校行事	あり		あり		あり		あり	
計		70時間		35時間		35時間		35時間

教職員の声

「子ども同士が協働したりぶつかったりしながら、心ゆたかに成長する場面が少なくなってきた」「異学年の子どもとの関りで成長につながる大事な学校行事を削減していかなければならないのが現状です」

日教組「教育課程に関する実態調査24」(小中学校)より

4 学習指導要領から部活動の記載の削除を 社会教育への移行によって社会全体で部活動を支える制度とするために

現行:学習指導要領に部活動と学校教育との連携を明記

提言

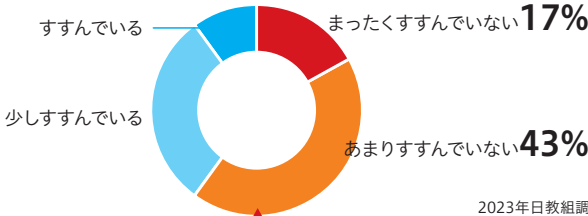
部活動は学校教育ではなく、社会全体で支える制度に

【日教組がめざす部活動地域移行】

- 部活動は地域で支えあう総合型地域クラブへ
- すべての子どもが楽しむスポーツ、楽しむ文化活動を
- 部活動を変えることで私たちの生活にゆとりを

日教組「働き方改革のための部活動地域移行にむけて」より

部活動の地域移行はすすんでいるか?



2023年日教組調べ

部活動の地域移行、6割以上が「すすんでいない」と現場は回答

教職員の声

「部活動の負担が大きいです。放課後や土日の活動を考えてほしいです」「学校で行う部活動として限界が来ているように感じます。部活動をやりたくても、勤務時間の適正化、生徒の安全確保で、部活動の時間が短くなっています。学校の活動としてではなく、クラブ活動として地域で行う方が指導者としても、生徒としてもメリットがあるように感じます」

日教組「働き方改革」意見投稿フォーム Ver.2、日教組働き方改革のための部活動地域移行にむけてアンケートより

5 標準時数を「最低基準」とした2003年通知の見直しを 年間授業時数を上回る編成をせざるを得ない現場実態の改善

現行:「標準を上回る適切な指導時間を確保するよう配慮すること」(2003年文科省通知)

提言

学校裁量の中で、子どもたちの学びの確保を

小学校、中学校、高等学校等の学習指導要領の一部改正等について(2003年文科省通知)

3 学習指導要領の一部改正等に関連する事項

- 教育課程を適切に実施するために必要な指導時間の確保
- 年間授業時数の標準を上回る適切な指導時間を確保するよう配慮すること。

教職員の声

「下回ってもダメ、上回り過ぎてもダメと言われても…。インフルエンザなどが流行すると「標準時数に足りるかドキドキする」

朝日新聞2025年3月31日より

年間授業時数に関する規定及び解釈の変遷

【1958年改訂】各学年における各教科等の年間の授業時数及び各学年の年間の授業時数を「最低授業時数」として示した。

【1968年改訂】年間授業時数を「最低」から「標準」に改めた。

【1977年改訂】標準として定めた授業時数を「大幅に上回ったり、下回ったりすることは避けるべき」とされた。

【2003年改訂】標準を「下回って教育課程を編成することは通常考えられない」ということが示された。

この通知が現場の時数をふやしている一因に